

- 滞在研究機関名、滞在先研究室名、ホスト氏名

滞在研究機関名：Life & Medical Sciences (LIMES) and Biomedical Center, University of Bonn

滞在先研究室名：Molecular Developmental Biology group (Prof. Michael Hoch lab)

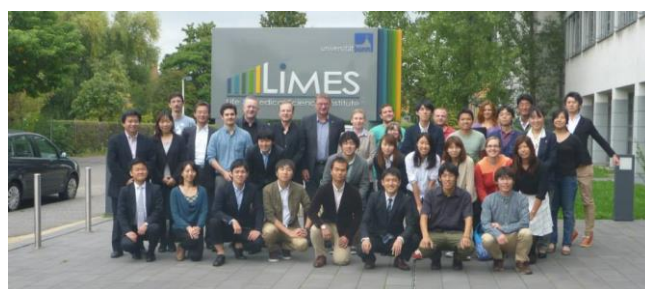
ホスト氏名：Prof. Michael Hoch、Mr. Satoru Wakabayashi (スーパーバイザー)

- 交流・研究概要

申請者は滞在先である LIMES にて、ホッホ研究室で研究を行った。LIMES では、常にホッホ研究室のスタッフ、学生と積極的にコミュニケーションを取るよう心がけ、研究におけるディスカッションについても何度も行った。また、現地の学生とはランチミーティング等も行い、多くの時間を研究に関するディスカッションに充てることが出来たと考えている。最終日のレセプションではホッホ研の学生に限らず、多くの教授の方、スタッフ、学生と交流することができ、自身にとって現地での交流は非常に充実したものとなった。

研究については、日本での自身の研究と同様に、生命科学の研究を行う LIMES で研究することにより、今後の自身の研究に役立てるよう、新しい手技の習得を期待して研究を行った。具体的には、遺伝子工学のうち、ノックアウトモデルを作製する際に用いる、CRISPR-Cas9 システムについて学んだ。

- 滞在先の写真、相手の写真など



- 交流総括

申請者は本プログラムを通じて、多くの海外の研究者と知り合い、研究面、生活面多くにわたり、積極的にコミュニケーションを取った。積極的にコミュニケーションを取ることは、現地の人とのより良い関係を築くこと、そして研究をより効率的に進める際において非常に重要であるということ強く感じた。また、研究については、自身の日本での研究に結びつけられる、遺伝子工学の手法である CRISPR-Cas9 システムの実験手技を学び、習得した。今後は、早稲田大学とボン大学のコラボレーションに貢献出来るよう、今回学んだ経験を日本での研究に活かし、これからも日々の研究に勤しみたい。

・プログラム日程

8月16日-17日：ドイツへ移動

8月17日：LIMES 訪問(LIMES の紹介まで)

8月18日-22日：

ホッホ研究室訪問・ホッホ研にて、ショウジョウバエを用いた表現型解析の実験(若林さんの下)

8月24日-29日：

ホッホ研にて、ショウジョウバエを用いた表現型解析の実験(若林さんの下)

8月30日：研究交流の発表(ホッホ教授の指導の下)

8月31日-9月1日：日本へ帰国